



万松寺

はくび通信

第
20
41
号
21



◀前立不動明王三尊像イメージ図

身代不動明王分身護摩札授与開始！

前立不動明王三尊像をお祀りするにあたり、新たに「身代不動明王分身護摩札」と「叶（かのう）御守」の授与を始めます。この御守は、改めて身代不動明王の大威神力のご加護がありま

すようにと、不動・護摩札・祈願者の三つを三位一体祈願して

場所 不動堂
日時 令和3年4月28日
14時半（開眼法要）
15時（護摩祈祷）
授与品 護摩札・御守
祈祷料 五千円



身代不動明王縁日護摩

場所 不動堂
日時 毎月28日18時～※
授与品 護摩札・御守
祈祷料 五千円



護摩札はご自宅にお祀りし、御守は身につけて、良い日々を過ごしていただきますことを心より祈念申し上げます。



前立不動明王三尊像ご開眼

◆前立不動明王三尊像登場！

前立不動明王三尊像とは、一般には前立仏（まえだいちぶつ）といい、普段秘仏として公開されない本尊の前に祀られる仏像のこと

をいいます。

万松寺の身代不動明王も秘仏として萱の中にお祀りし、普段は公開しておらず、前立仏も祀つておりませんので、直接ご参拝いただくことができませんでした。

ところがこのコロナ禍の中、不思議としか言いようのないご縁があり、万松寺納骨堂ご契約者様の中から大勧進が現れ、前立不動明王三尊像をご寄進いただきました。

身代不動明王自らが、信仰ある人の心と身体を通して出現されたかのようにも思えます。

これからはいつでもご参拝いただくことができますので、ぜひ足をお運びください。

毎月28日の身代不動明王縁日に、御火加持をお申込みいただいた方に、お名前を書いてお授けします。

行事・祈祷・供養のお問合せ・お申込みは
052-1262-10735
祈祷受付 または
（年中無休）

※令和3年4月28日は14時30分からとなります。その他行事等の都合により時間が変更となる場合がございます。

住職の小噺

からくり人形「信長」

～からくり人形の歴史と
第一場「抹香事件」～



商店街からふと万松寺の白龍を見上げると、金色に輝く織田瓜の家紋が見えます。

毎日10時、12時、14時、16時、18時に、梵鐘の響きとともに織田瓜の付いた重厚な扉がゆっくりと開き、からくり人形「信長」の上演が始まります。

たという話です。

江戸時代初期には、山車にからくり人形を載せた祭りが名古屋でも多く行われました。しかし、8代将軍徳川吉宗は財政建て直しの為、檢約令を出し、祭りなどを縮小します。

1730年、7代尾張藩主徳川宗春は、幕府とは反対に芝居小屋や祭等の娯楽を積極的に取り入れる政策を取り、「名古屋の繁栄に興(京都)が覚めた」と言われるほど、名古屋に数多くの職人を惹きつけました。京都のからくり人形師であつた初代玉屋庄兵衛もその一人です。

第一場「抹香事件」

からくり人形「信長」の上演が始まると、中から舞台がせり出し、中央に腰に荒縄の帯・長束の太刀と脇差しをさした若き日の信長が現れます。

当時、万松寺で行われた、父秀の葬儀をからくり人形で再現した第一場です。

信長が抹香を投げる仕草をする

と、足元から煙が舞い上がるという趣向が取り入れられています。

からくり人形にいち早くコンピュータ制御を取り入れた、8代目玉屋庄兵衛によって作られました。

万松寺住職

大藤 元裕

合掌

次回は、桶狭間合戦出陣前に清洲城で舞つた天下の舞「幸若舞」を再現した第二場についてお話をします。

残された伝統を継ぎ、時代に合わせた未来を作つていくことが大切だと改めて思っています。



3/3(水) 信秀忌

万松寺を建立した織田信秀公(織田信長公の父)の命日供養を當みます。

3/7(日) 災害物故者追悼法要

震災などの災害で亡くなつた世界中の方を悼み、復興・再生への祈りを込めて、追悼法要を當みます。

3/21(日) 22(月) 春彼岸 合同法要

彼岸(浄土)と此岸(現世)が近くなるとされる彼岸の時期に、追善供養を當みます。

3/23(火) 初午会

稻荷の日である旧暦初午の日に、白雪稻荷のご真前にて、五穀豊穣・商売繁盛の祈祷を行います。

行事・祈祷・供養のお問合せ・お申込みは

祈祷受処(または
052-262-0735
にて承ります。
(年中無休)

4/4(日) 花まつり

降誕会を祝し、花御堂(はなみどう)の誕生仏に甘茶を灌ぐ花まつりを行います。



4/23(金) 春姫忌

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、行事・イベントは変更となる場合があります。

詳しくはホームページをご確認ください。

これから行事

仏教が教える

仏教の豆知識



日々是好日

「にちにちこれこうにち」

有名な禅語で映画のタイトルにもなった言葉「日々是好日」。中国の仏教書「碧巖録」(へきがんろく)」に収められた雲門禅師の言葉です。

読み方は「にちにちこれこうにち」「にちにちこれこうじつ」などいくつかあります。また、解釈についてもいくつかあります。私が「毎日を意味のある一日にするように努める」と捉えて日々過ごしています。

一日という時間の長さは人によつて変わるということはありません。どんな生き方をしてしません。どんなん生き方をしてしません。どう生き方をしてしません。しかし一日というのには、何となく過ごしても一日、何かを考え過ぎても一日ですから、その過ごし方、使い方によつて質が全く異なります。また、晴れの日もあれば雨の日もあるといつたように、自分の力ではどうにもならない事柄をどの様に受け止めるかによっても質が全く異なります。皆さんの「今日」という一日はどんな一日ですか?

二〇一九年未から拡がりを見せている新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)は、一年以上が経つた現在も、収まる兆しがあるどころかより一層猛威を振るっています。

このコロナの拡大は、私たちが今まで当たり前と思っていたことが当たり前ではないのだと気づかせてくれました。

今まで当たり前だったマスクを着けない生活、お盆や正月の帰省、大勢での旅行や会食などは、この一年は当たり前ではなくなりました。それどころかマスクを着用して密を避けることが、今では当たり前になつています。

コロナによる変化の波は、毎日の生活だけでなく、初詣などの伝統行事や冠婚葬祭などの儀式にも変化をもたらしています。特に、ひとの「死」という一生に一度しかない出来事に関して、制限や自粛をしなければならない状況はとても悲しく思います。

良かった。もつとやれることはあつたはずなのに」といった後悔の念をおっしゃることがあります。

ただ、ひとがいつ亡くなるかなどということは、ほとんどの場合誰にも分かりません。もしもしたら明日亡くなるかもしかかもしれません。仮にいつ亡くなるかがわかつたとして、できることをできるだけ行つて最期を迎えたとしても、その時はその時でまた違った後悔の念を抱くのではないかでしょうか?そしてそのような後悔の念はご遺族のみならず、故人も同じように抱いていると思います。

ですから私は、ご遺族の方に「故人を想い、手を合わせて感謝の念を伝えることは、今からでもできます。また、故人もその功徳を受けて、皆さんを災難から護つてくださいます。」とお伝えしています。

時間というものは一度過ぎてしまふと戻すことはできません。ですから今日という一日がとても大切なことです。そして大切に過ごした今日の積み重ねの人生は、きっと意味のある最期を迎えることでしょう。

「言うは易し行うは難し」という言葉があるように、すぐに実行できないこともあります。そんな時は「日々是好日」という言葉を思い出すだけでも意味があると思います。

皆様にとつて今日という大切な一日が、充実した一日となりますよう心より祈念申し上げます。

日々の仕事や家事に追われていると、なかなか自分の人生を顧みて実行することは難しいかもしれません。ですが、たとえ5分でもいいので家族と雑談したり、子供や孫と遊んだり、故人を想つて手を合わせるなどちょっととしたできることをやつてみてはいかがでしょうか?

日々の仕事や家事に追われていると、なかなか自分の人生を顧みて実行することは難しいかもしれません。ですが、たとえ5分でもいいので家族と雑談したり、子供や孫と遊んだり、故人を想つて手を合わせるなどちょっととしたできることをやつてみてはいかがでしょうか?



家族葬から社葬まで、ご要望に合わせて執り行います。

~故人を偲び、集い、心を込めて送りたい~

万松寺の葬儀

葬儀に必要な読経・斎場・追善供養など全てを万松寺にお任せいただけます。



お問合せ ご相談は 0120-157-942 または万松寺自龍館 1F 総合受付まで

枕経から葬儀、その後の法要まで全てセットになった安心プラン。

A プラン

通常価格

820,000円(税抜)

万松寺納骨堂
ご契約者様
特別価格

760,000円
(税抜)

万松寺日記

年末年始の法要・祈禱

万松寺の行事の中でも、特に年末始は多くの行事があり、多くの方で賑わいますが、本年は新型コロナウイルス感染症の再拡大により例年に比べて静かな年末年始となりました。

正月合同法要

■令和3年1月2日（土）
3日（日）



■令和3年1月1日（金）
2日（土）



■令和2年12月31日（木）



■令和3年1月4日（月）



■令和3年1月2日（土）
3日（日）

正月飾り、古い御守・御札などを、読経と淨火により供養するお焚き上げを當みました。あわせて凶返し吉祥護摩焚きを行いました。

■令和3年1月9日（土）

節分会を行いました。

本堂で、七難即滅・七福即生の祈

本命星と当年星がより吉勢となる

ように、除災招福の祈祷を行いました。

あわせて不動堂で、星祭として、

本命星と当年星がより吉勢となるように、除災招福の祈祷を行いました。

昇龍焚き上げ

節分会

■令和3年2月2日（火）

本堂で、七難即滅・七福即生の祈

本命星と当年星がより吉勢となるように、除災招福の祈祷を行いました。



※本年の節分会・星祭は一般参加を中止とし、僧侶のみでご不参加を行いました。

海苔祈禱

■令和3年1月28日（木）

万松寺では、1月13日に発令された新型コロナウイルス感染症に関する政府の緊急事態宣言を受け、期間中に開催予定だった行事や催しを中止または縮小とさせていただきました。

イオンの恵方巻に使用される焼きのりに護摩祈禱を行いました。

倉庫や店舗の方にはオンラインで参加いただきました。

いただいた皆様には申し訳ございませんでした。

またのご参列、ご参加を心よりお待ち申し上げます。



万松寺の永代供養納骨堂

お墓・供養のあらゆるお悩みにお応えします



万松寺納骨堂が選ばれ続ける3つの理由

1 由緒ある寺院による安心の永代供養

2 納骨後も安心な負担の少ない法要費用

3 駅から徒歩3分天候に左右されない屋内施設

0120-157-942
または万松寺総合受処まで